

# 朝日連峰 障子ヶ岳東面ダイレクト尾根

林 正規

■山行年月日：2018年3月24日

■メンバー：林正規

■コースタイム：大井沢 (8:15) 大井沢二俣 (9:00) 左岸尾根末端 (9:45~9:55) 1100m 付近下降点 (12:05) 大井沢二俣付近 (12:50~13:00) 障子ヶ岳 (17:20~17:35) 1349m峰 (19:00) 左岸林道 (22:00) 大井沢 (24:00)

障子ヶ岳東面ダイレクト尾根。2017年1月の3連休で天狗角力取山から寒江山を目指した時、豪雪のファーストラッセルに喘ぐ2人の前にその東面が姿をさらしてくれた。その姿に何度も目を奪われ、下山後も心に残り続けていた。ほどなくして「わらじの仲間」の正月期の記録(小田・田中の女性ペア!)を知ったが、その他の記録は見つけることができなかった。わずかに標高1500mにも満たない、いわば低山にあってあの威容。さらに情報量の乏しさ、天邪鬼な性格のせい、逆にそこに惹かれてしまう。あれから1年余りが経過し、いよいよこの日がやってきた。怪我の影響もあり、厳冬期の登高は見送ったが、3月下旬なので一応は積雪期。僕にとっては1ヶ月遅れの冬季五輪だ。

当初1泊を想定していたが、痛めた足首の状態から雪の中で夜を明かすことに不安があったため、思い切ってワンデイアッセントの計画に切り替えた。悩んだが、軽量化してライ

ト&ファストの方が得策と考えたのだ。

24日(土)【晴れ】 いわきを4時半に出発し、常磐道、東北道、山形道をひた走り、月山ICから大井沢集落へ。ワンデイとはいうものの、さすがに下山後にいわきまで帰るのは無理なので、麓の民宿を予約済。林道入口の除雪の凹みに駐車して、ショートスキーでアプローチ開始。計算上は夕方には下山と踏んでいたが、スタート時点で1時間以上も遅れている。ワカンのトレースに導かれ、林道を進む。右岸に渡る橋のところで行く手に真っ白な山が見えてきた。障子ヶ岳か？



大井沢の向こうに真白き障子ヶ岳

林道は二俣で左岸に渡り、やがて樹林帯へと続くスキーのトレースを追っていく。地形図では左岸から入る出合吹沢を越えた先から尾根の登りが始まるようなので、出合手前の台地状の突端付近にスキーをデポする。雪に埋まった沢を渡るところで、下ってくる単独行者と出会う。翌日の山行のために単独で尾根

の途中まで偵察に行ってきたが、尾根の雪の付き方が悪く、登りにくいとのこと。左岸尾根を登り始め、尾根の下部は段差部分で雪が途切れ面倒な部分もあったが、中間部まで来ると、穏やかなブナ林が広がり癒される。



ブナが美しい大井沢左岸尾根中間部



大井沢左岸尾根から障子ヶ岳東面を臨む



障子ヶ岳東面の威容

1100m付近の分岐から二俣へのびる支尾根

を30分ほどで下るが、二俣付近が屈曲していて滝でもあると厄介なので、大クビト沢を渡り1本上流側の尾根末端から大井沢に降り立つ。二俣で小休止後、自然な登路を探しなら右俣を遡る。左岸の岩壁が思いのほか迫力がある。これが障子ヶ岳東壁か？



大井沢へ下降開始



大井沢二俣付近のデブリ



大井沢左岸の黒い岩壁

右岸の広いレンゼから戻り気味に左側の支尾根を経由してダイレクト尾根に乗る。ワカンからアイゼンに替え、ストックからダブルアックスに替えてダイレクト尾根の登攀を開始。日射で雪が腐り、かなり滑ってしまうが、仕方ない。ダイレクト尾根自体は技術的な難しさはないが、段差部分を乗越したり、雪壁をトラバースする箇所では雪が緩んでいると、やはり恐怖感はある。末端から山頂まで標高差 800m 弱の登高を 3 時間以内という目算だったが、4 時間以上掛かって、最後は美しい三角壁から山頂に立つ。日没前ぎりぎりのタイミングだが、夕暮れの大展望を楽しむ。そして日没。あとは暗くなる前どこまで下れるか…頂稜を北上して、できれば左岸尾根の下降まで入っておきたい。18 時半頃、1304m ピークで携帯の電波が立っていたので、宿泊予定の民宿に下山予定が大幅に遅れて 22 時近くになる旨の連絡を入れる。順調に下れば、ここから 3 時間強で着けるはず。1349m のジャンクションピークから無事に左岸尾根に入り、どんどん下っていく。



ダイレクト尾根上部の雪稜



朝日連峰北部の山々に陽が沈む



夕闇迫る障子ヶ岳の頂にて

順調に下っていると思っていたが、なかなか下に着かない。登った尾根から外れているのは確実だ。ひょっこり林道に飛び出すと、ショートスキーのトレースがあった。どうやらヨウザ峰へと続く大きな尾根に入ってしまった、途中から支尾根を下ったようだ。引き返してデポしたスキーを回収。最後でミスしたが、とりあえずは安全圏。24 時ちょうどに宿に着くと、深夜にも関わらず、食事とお風呂の準備までしていただき、申し訳ない気持ちでいっぱい。この冬は怪我で出遅れたが、会心のステップを刻むことができた。金メダルを獲った訳ではないが、自分で自分を褒めてあげたい！そんな気持ちで眠りに就いた。